



第20回キッズデザイン賞受賞 360度見渡せる見守り空間、社会性を引き出す園舎へ かき道ピノキオこども園

株式会社ジャクエツ（本社：福井県敦賀市／代表取締役社長：徳本達郎）が設計を行った「社会福祉法人 正道会 かき道ピノキオこども園」が特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催（後援：経済産業省・内閣府・消費者庁・こども家庭庁・東京都）の第20回キッズデザイン賞を、感性・創造性育成部門において受賞しました。

本受賞は、園を運営する社会福祉法人 正道会、共同設計を行った株式会社四次元と弊社による共同受賞となります。

子どもたちの行動や表情、コミュニケーションの取り方などを丁寧に観察し、一人一人の個性や発達段階、興味関心に寄り添うこども園の再生計画です。建物の中心から360度見渡せる空間に再編したことで、複数の異なる視点からの見守りが重なり子どもも先生も自発的に気づき行動する日常が生まれます。成長と発達が促される環境を実現しました。



▲遊歩道からの登園の様子



▲見守るベース越しに屋内遊具を見る



▲子どもたちのつながり

【課題の着眼点】

- ①セキュリティや登園・降園管理を重視した園舎設計により、保育室と担任以外の先生の居場所が分離しやすい傾向。
- ②保育の視点が限定され、子どもの小さな変化を捉えにくい。
- ③見守る目を増やし、多様な視点から子どもと関われる空間づくりが求められている。

【課題へのアプローチ】

- ①本園舎は既存園舎を減築、増築、改修しながら再生した建物。既存建物から動線を再編し、エントランス位置を変えて園舎の中心に直接アクセスする計画。
- ②「見守るベース」を中心に配置し、0～5歳児の保育室・園庭・外部アプローチを見渡せる360度の視野を確保した。
- ③当事者同士の「見る・見られる」関係に加え、第三者も見守ることができる、関係性の透明度を高める構成。

【実績・ユーザーの評価・エビデンス】

再生前は、2～5歳児と病児を本建物内で、離れた別敷地で0、1歳児の保育をしていました。計画当初の建替えでの検討から今回の再生計画により、全園児を同敷地内での保育が可能になりました。子どもたちの適応力には著しい変化が表れています。異年齢の子ども同士の関わりの広がり（関わる・お世話する・遊ぶ・教え、教えられる等）から遊びへの動機づけ（やってみたい、してみたい等）が無限に保障され、子どもたち自身が更に生き生きとしています。

【株式会社ジャクエツ】

1916年創業。「未来は、あそびの中に。」をスローガンに掲げ、企画・コンサルティングから設計、施工、運営管理まで、地域社会や施設の課題解決に向けたサービスをワンストップで提供する。近年は包括連携協定の締結やPark-PFI事業への参入など、あそびの視点を活かしたまちづくりに取り組む。質の高いあそびの環境をデザインすることで、子どもたちの成長とともに大きく花開いていく「未来価値」を創造し続ける。

【お問い合わせ】

株式会社ジャクエツ

東京都港区高輪4丁目24-50

TEL:03-3442-2260／FAX:03-3442-2261

MAIL:press@jakuets.co.jp

広報担当者にご連絡ください。